

四川国際友好都市青少年「四川をアジワウ」ウインターキャンプ 報告書

No	氏名	性別	学校名	学年	ページ
1	兼満 愛	女	広島県立呉三津田高等学校	2	2
2	赤畑 利奈	女	広島市立舟入高等学校	2	3
3	本橋 凜	女	広島市立舟入高等学校	2	5
4	川合 栞里	女	ノートルダム清心高等学校	1	6
5	山本 栞	女	ノートルダム清心高等学校	1	7
6	小野 みはる	女	広島なぎさ高等学校	2	8
7	次部 大樹	男	広島なぎさ高等学校	2	9
8	多田 羽奏	女	広島県立五日市高等学校	2	10
9	柴村 航生	男	広島県立五日市高等学校	1	11
10	出口 知秀	男	武田高等学校	1	12
11	白木 聖羅	女	武田高等学校	1	13
12	下野 紗羽	女	武田高等学校	1	15
13	石橋 二昂	男	武田高等学校	1	16
14	渡部 未悠	女	広島県立熊野高等学校	2	18
15	馬屋原 瑠美	女	盈進高等学校	1	19
16	陶山 加奈	女	広島県立広島国泰寺高等学校	1	21
17	田 遥嘉	女	広島県立広島国泰寺高等学校	1	23
18	山本 優輝	女	広島県立広島国泰寺高等学校	2	24
19	角田 和哉	男	広陵高等学校	2	25
20	吉本 翔陽	男	広島県立尾道北高等学校	1	26
21	岡 歩美	女	広島県立尾道北高等学校	2	27
22	西門 遼奈	女	広島県立尾道北高等学校	2	28
23	菊田 琴美	女	広島県立尾道北高等学校	2	30

実際に見た中国

広島県立呉三津田高等学校 2年 兼満 愛

私が今回のウインターキャンプに参加した目的は、本当の中国を自分の目で見て確かめること、広島や日本の良さを伝えることの2つでした。

特に印象に残っていることは3つあります。1つ目は食文化です。日本では、1人分ずつ配膳するのに対し、中国では大きなたくさんの皿をみんなで囲んで食事します。また、箸の形やテーブルの形も日本と違い驚きました。料理は、山椒や唐辛子のきいたものや、カメや兎など日本では滅多に食べられないものも多く、隣の国でもこんなにも食事の差があるのだと感じました。2つ目は中国の発展です。成都博物館や都江堰などの歴史ある場所の訪問と、成都企画館などの中国の将来ビジョンを知ることができる場所の訪問を通じて、中国は歴史ある建物や遺産、長い伝統をもつ変面劇などの魅力と共存しながら発展を続けていることに気付きました。成都市は、新しい開発コンセプトを反映した中央都市の建設を2020年までに目指しており、新しい空港や道路、地下鉄などインフラ整備が進められていました。私が考えていたより成都の街は綺麗で高層ビルばかりで驚きました。3つ目はホームステイです。言葉が通じるか、広島の良さをうまく伝えられるかととても不安でしたが、ホストシスターは流暢な日本語で私に優しく笑顔で話しかけてくれ、私の不安な気持ちは吹き飛びました。2日間という短い間でしたが、一緒に火鍋を食べに行ったりショッピングをしたりと楽しい時間を過ごせました。また、私が目標としていた広島の良さを伝えることもできました。実際の中国の生活を体験し、日本との違いも知ることができました。

また、このウインターキャンプを通じて多くの素晴らしい出会いがありました。一緒に参加した広島県の仲間や、山梨県の方々、通訳をしてくださった中国の大学生スタッフの方、ホストファミリーなどとの出会いは私にとってかけがえのない宝物となりました。多くの中国人との交流を通じて、中国の人々は私が思っていたよりもフレンドリーでとても親切だということに気付きました。この経験で知った中国の良さを友達や家族に伝えていきたいです。私自身も視野を広く持ち、異文化を尊重できるように努力します。

最後にこのウインターキャンプに関わってくださった多くの方々、本当にありがとうございました。



「你好！四川！」～四川を訪れて～

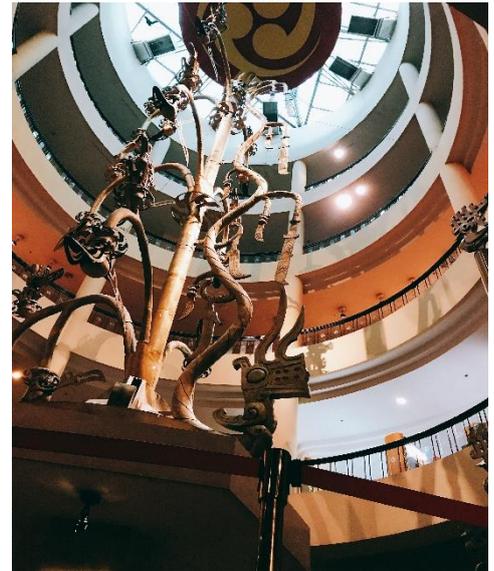
広島市立舟入高等学校 2年 赤畑 利奈

「中国」について皆さんはまず何を思い浮かべるでしょうか。パンダだったり、辛い料理だったり…。麻婆豆腐を始めとする香辛料たっぷりの四川料理の本場であり、パンダ保護地が多く存在する四川省は私たちの持つ中国のイメージをギュッとつめこんだところかもしれせん。

● 古くから残る独自の文化

四川省の省都、成都是多くの高層ビルが立ち並び夜には光り輝く夜景が広がります。

そんな都会の中にも歴史あり。約3千年前から仮面王国という独自の文化が発展し、現代でも食文化や中国4大劇のひとつ川劇などの多くの独自文化が残っています。四川の人々に人気なのは三国志。「蜀」に位置する四川の劉備玄德や諸葛亮孔明の墓には今も多くの人が訪れ、大きな休暇には三国志のドラマが必ず放映されるそうです。多くの歴史的博物館を巡る中で特に印象に残ったのは広漢三星堆博物館での「その昔、太陽は10羽の鳥が一つずつ運んでいたもので10個あった。10個の太陽が照らすためあまりにも熱く、田畑も干からびるほどだった。ある男はこれを解決するため、弓矢で鳥を9羽撃ち落とした。こうして、現在のように太陽は1つになったそう。」という神話を表すモチーフです。中国の昔の人々は神や自然に対してどのように考えていたのか、捉えていたのかを知るいい機会になりました。



● 四川の人々



学校見学の際には、とても多くの学生に出迎えていただき感激しました。校内には環境の整った受験生専用の校舎があったり、博物館や大きな屋外舞台もあり日本の高校では考えられないほどの規模に驚きました。学生は自国や自分たちの文化に誇りを持っていて、四川の伝統的な踊りや演奏、書道を披露してくれました。そしてアニメなど日本の文化が好きな人も多く、日本語を使って積極的に私たちと繋がりを持とうとしてくれたことがうれしかったです。また、ホームステイでは家族の方々が歓迎してくださり、四川の人々の生活スタイルに触れると共に日本での生活との違いに新鮮な気持ちになりました。

四川では、歴史、街並、文化、全てのスケールが大きく、圧倒され、自分が持っていたイメージが覆されることも多々ありました。また、四川の人々の自分たちの国や街の文化に

対する姿勢を見て、見習わなくてはいけないと感じました。今回このウィンターキャンププログラムに参加し、国際交流において実際に自分自身の五感を使ってその国を知ることの大切さを改めて感じ、より深く「四川をアジワウ」ことができ貴重な体験になりました。もっと語り合いたい、中国をより深く知りたいと感じ、是非再度訪問したいです。そして今回学んだことを自分の将来に役立てていきたいです。この度ウィンターキャンプに携わってくださった広島県庁国際課の皆様、一緒に参加した広島県・山梨県の学生の方々、そして四川省の皆様感謝申し上げます。本当にありがとうございました。謝謝！

自分の目を見た中国

広島市立舟入高等学校 2年 本橋 凜

私は2018年12月24日～29日に「四川をアジワウ」ウインターキャンプに参加し、四川省を訪問しました。私は単純に中国に行ってみたくらいという思いと、中国の内陸部に位置する四川省のインフラ整備に対する興味を持ってこの事業に参加しました。

中国は地理的にはとても近くに位置していながら、多くの文化や慣習の違いがありました。内陸部にある四川省の食事や生活スタイルは中国の中でも特色あるものでした。ウサギの頭を食べたことや変面ショーやパンダを見たことは、一生忘れられない思い出です。ホームステイでは家庭料理も食べさせていただき、とても楽しい時間を過ごすことができました。



また、訪問を通して学んだことは、中国特に四川省成都市は歴史と技術の融合する近代未来都市だということです。蜀の時代から続く歴史を継承していきながら国際都市を築いていると分かりました。成都市では2003年から都市計画が実施され、今後は1.5億人が利用する国際空港や高さ677メートルにも及ぶ高層ビルの建設が予定されているそうです。また、現在は大きな道路の地下を中心に通っているだけの地下鉄も今後拡張されると聞きました。実際に、成都市郊外には多くの工事現場や建設予定地が見られ、発展していく様子を感じられました。高速道路は予想よりも整備されており、街の中心部のジャンクションは規模が大きく印象的でした。

今回、このウインターキャンプに参加したことで、本当に多くのことを学ぶことができました。文化や思想、言葉などの相違点があっても、対等にコミュニケーションがとれ、同じ時間を過ごせたことは、不思議な感覚だったのと同時に、誇りに思え自信が持てました。この経験をより多くの人に伝え、たくさんの人に中国の魅力を発信していきたいです。そして、自分の将来の糧としていきたいです。



四川をアジワって

ノートルダム清心高等学校 1年 川合 栞里

今回の四川派遣事業を通して、日本にはできない多くの体験をしました。

それまでの中国に対するイメージはあまりよくありませんでした。中国はアジア文明の中心で、特に四川は、古代から受け継がれるものが多く残される歴史ある街です。しかし、ニュースを見ると、食品の安全性や衛生面への配慮の低さ、観光客のマナーの悪さの方が印象に残っていました。



現地に行つてすぐ、近代化が大きく進んでいると感じました。想像していたほどのひどい大気汚染やゴミはなく、高層ビルが建ち並び、クラクションが鳴り響きたくさんの車や人が行き交う光景は、日本では見たことがなく驚きました。一方で、一歩郊外に出ると、壁がなく出店のような状態の店がほとんどで、伝統的な町並みが見られましたが、同時にそこに都市部との格差も感じました。同じ省の中でも、地域ごとに街の雰囲気は大きく変わっていて中国の広大さを実感することができました。

また、ホームステイを体験して人々の優しさにも触れることができました。中国語も話せない上にホームステイをするのは初めてだったのでとても不安でした。それに、中国人観光客のマナーの悪さをよく耳にしていたので、冷たい人が多いのかなと思っていました。しかし、ホストファミリーは皆、スマホの翻訳機能を使って積極的に話しかけてくれ、たくさんコミュニケーションをとることができました。ホームステイ先の近所の方々も、「ようこそ」と言ってくださり、本当にうれしかったです。また、ホスト学生が見せてくれた、中国の古い暮らしを映したビデオは、楽しみながら中国の伝統的な食べ物について知ることができました。別れ際にくれた日本語でのメッセージは私の宝物です。

実際に中国に行くことで、ニュースだけではわからないような中国の魅力を改めて発見するとともに、少しでも中国の抱える問題にも触れることができ、本当に貴重な体験になりました。これからも、中国への理解を深めながら海外にも幅広く目を向け、今回の派遣事業で広がった自分の世界をより広げていきたいと考えています。



四川を「見る」ことで「看えてきた」異文化理解

ノートルダム清心高等学校 1年 山本 栞

今回の研修は、「四川をアジワウ」が中国語で「看四川」と書かれていたように、ただ観光地を見て回るだけでなく、中国の人たちの温かな心や四川の長い歴史、豊かな自然を心で感じた、まさに四川を「看る」ことのできた旅行でした。多くの人や物との一期一会の出会いがあり、私の中で今まで学んできた知識が実感を伴った認識へと変化したことも多かったように思っています。

一期一会の出会いの中で真っ先に思い出すのは、ホストファミリーの人たちとの交流です。今までの旅行は観光目的のものが多く、「観光客」としての視線しか持っていなかった私にとって、人々の暮らしを自分も一人の住民になったつもりで体験し、現地の方々と沢山交流できたことはこの上なく貴重な経験でした。そして、そのことは同時に、私に好奇心を持つことが自分の視野を広げることにも不可欠なのだと思わせてくれました。このような出来事のなかでも印象的だったのが文化、特に中国茶についてです。茶道部に所属している私は、以前から中国の茶の文化に興味を持っていました。調べていくうちに、外国人にとっての「和」の象徴である抹茶を日本人である私たちが若干敷居の高い「観光化した文化」と捉えているように、日本では観光客と現地の人たちとの間には文化について何かしらのギャップがあることに気づき、中国茶は人々の生活にどれほど浸透しているのか実際に目で見て知りたいと思うようになりました。そして今回、そのことをホストファミリーの方に話してみると、私の思いをしっかりと汲み取ってくださり、家庭で実際に使っている茶器や茶葉を見せてくださったり、地元のスーパーに連れて行ってくださったりし、そのおかげでより一層実際の中国を感じることができました。その中には、自分が興味を持たなければ確実に話題に上らなかつたであろうものや場所も含まれており、時、場所に関係なく学ぼうとする姿勢をしっかりと示し、理解して頂くことの大切さにも改めて気づくことができました。中国茶の作法を見様見真似で習ったり、日本の茶道の文化を色々な方法で伝えることができたのも良い思い出です。

最初はホストファミリーとコミュニケーションをとる時になかなか言語の壁を越えることができず苦労しましたが、だからこそあらゆる手段を用い、互いを理解しあえた時はより心と心の温かな触れ合いを感じることができました。このように、異文化理解において欠かせないことは言語能力の向上だけではなく、相手を理解しようとする心なのではないかとこのプログラムを通した経験から私は思っています。

最後になりましたが、中国でこんなにも濃い一週間を過ごすことができたのは、四川省派遣事業に関わってくださった方々のおかげです。本当にありがとうございました。



美しい中国茶の茶器たち



お世話になったホストファミリーの方々

四川をアジワウ 報告レポート

広島なぎさ高等学校 2年 小野 みはる

私は四川をアジワウに参加し様々なことを学ぶことができました。この経験で得たこと、学んだことは、数えきれないほどたくさんありますが、その中から特に印象が残っていることを2つ報告します。

1つ目は、中国の同世代の人々の学力、学習意識の高さです。私は、学校交流を通してこのことを実感しました。例えば、私たちが訪問した学校は全寮制で、学生は土曜しか家に帰れず6時から夜の10時まで勉強をしていたり、受験を控える高校3年生のために受験生専用の校舎がありました。また、交流会で交流した学生たちは、私より1つ下の学年でしたが、英語能力が私たち日本人よりもはるかに高かったです。学校交流を通して、自分の学力や自分の学習意欲の低さに気づかされました。これからは、世界の流れに置いていかれないよう、積極的に勉学に励まないといけないと思いました。

2つ目は、その現地に行って、人々と触れ合うことの大切さです。私は、このキャンプに行くまで中国という国や人々にあまり良い印象を持っていませんでした。しかし、このキャンプが終わると考えは全く違うものになりました。特にホームステイが私の考えを大きく変えてくれました。ホームステイに行く前までは、ホストファミリーはどのような人たちか、言葉が通じ合えないのに互いに分かり合うことができるか、などいろいろなことを心配していました。しかし、ホストファミリーの方々はそのような心配を一瞬で吹き飛ばすくらい温かく迎えてくださいました。一緒に夜ご飯を食べに行ったり、スーパーで買い物をしたり、ホームステイをしなければできないような経験をたくさんさせてくださいました。また、ホストマザーは様々なところで中国の文化や伝統について教えてくださいました。家族みんなでダンプリングを作ったり、テレビを見たりと、私に本当の家族であるかのように接してくださいました。最後のお別れの時は、ペアが最後まで手を振ってくれていたことや、ホストマザーが翻訳機を使いながら「離れていても一生の友達でいればOK」と言ってくださったことが忘れられません。出発まで時間が少なかったため、ペアにもホストマザーにもあまりお礼を言うことができなかつたのがとても申し訳ないと思っていますが、日本で会ったときは私が温かいもてなしをして、今回の恩返しをしたいと思います。

この経験を通して、積極的に行動していくことの必要性や、偏った固定観念は信じすぎず、現地に実際に行き、人々と交流することの重要さを学びました。また、出会った人には熱いおもてなしの心を持って接することが大切だと思いました。今回のキャンプで学んだこと、してもらったことを忘れずに、恩返しの心をもって、他国の人たちと理解し合える社会をつくるよう、日々生活していきたいと思っています。



四川をアジワウに参加して

広島なぎさ高等学校 2年 次部 大樹

私が「四川をアジワウ」に応募しようとしたきっかけは、「同じ中華圏にある台湾と中国とを見比べたい」「今の中国を見てみたい」という思いからでした。台湾と中国を比較することでまた新たな発見につながると思いました。また、これからも発展していく今の中国を実際に見ることで、大人になったときに役に立つと思いました。これからの発展が楽しみである中国について、多くの日本人は人口が多い国、旅行に行くには危険な国、偽物の商品が多い、衛生状態に問題があるといったネガティブなイメージがあります。私も中国に行くことに少し不安を感じていました。しかし、このキャンプを通して関わってくれたホストファミリー、大学生ガイドの皆さんがとてもいい人で、私の不安を取り除いてくれました。そして四川を訪れて深く印象に残ったことが3つあります。

1つ目は街並みです。私は初めて四川省を訪れました。そして、日本ではほとんど見ることができない電動バイクやそのバイク専用の道路のレーン、たくさんの車とバスによって引き起こされる渋滞、広島より広い道幅、何車線もある道路、至る所にある地下鉄の駅、四川省の省都成都にはたくさんの高層ビルがひしめき合っており、その都市の発展具合にとっても驚きました。また成都計画館を訪れこれからの成都の壮大な発展計画を見て、私たち日本はどうなってしまうのかとても不安になりました。

2つ目はパンダです。パンダは日本でも人気の高い動物であり東京にある上野動物園には3頭います。そのパンダは日本と中国の交流を図るために中国から贈られてきました。私は本物のパンダを見たことがないのでとても楽しみにしていました。そしてパンダ保護研究センターを訪れ実際にパンダを見ました。本物のパンダは写真や映像で見るよりもかわいらしく行動も愛くるしいため、ずっと見ていられる気分になりました。この愛くるしさパンダが自然でも生息している四川が羨ましく感じました。

3つ目は同世代との交流です。都江堰中学との交流会とホームステイをしました。交流会では書道のパフォーマンス、伝統あるダンスや音楽を聴くことができました。さらに日本のアニソンの披露やコスプレ姿でのダンスがあり、私は日本についての理解があることが分かりうれしくなりました。また、私のホストファミリーは父母息子という三人家族でした。ホストファミリーと過ごした時間はとても有意義な時間となり日本と違う文化を体験することができました。

今回のキャンプを通して日本と中国との交流をよりよくするためには民間レベルでの交流が必要だと思いました。民間レベルでの交流によってお互いの文化を理解することによって先入観をなくすことができます。そしてお互いの良さを知ることができより理解が進み交流がより深まります。私は今回感じたことを家族や友人に共有したいと思います。最後になりますが今回のキャンプに携わってくださったすべての方に感謝申し上げます。 谢谢。



『四川をアジワウ』 ウィンターキャンプ報告書

広島県立五日市高等学校 2年 多田 羽奏

今回私が参加したウィンターキャンプでは、四川の歴史博物館や刺繍の博物館、パンダ保護センターの見学、変面劇の鑑賞、そして高校生のお宅でのホームステイなど、様々な体験をすることができました。

ホームステイでは、南橋へ連れて行ってもらいました。橋や川がライトアップされており、とても綺麗でした。橋の近くにある古町は中国の伝統的な建物が立ち並び、沢山のお土産屋さんが連なっていました。また、ホストファミリーの女の子から、古琴という中国の伝統的な楽器に触れさせてもらうという、とても貴重な体験をすることができました。

私が中国へ訪れて、驚いたことがいくつかあります。

一つ目は、バイクと自転車の多さです。町のあちこちに貸し出しの自転車があり、それはどこでも路上で乗り捨て自由です。深刻化している地球温暖化の対策にもなるので、日本も貸し出し自転車を増やせばよいのにと思いました。

二つ目は、トイレットペーパーをトイレに流してはいけないことです。中国では、トイレの横にあるゴミ箱に使用済みのトイレットペーパーを捨てます。中国のトイレットペーパーは水に溶けないため、下水管が詰まるからだそうです。

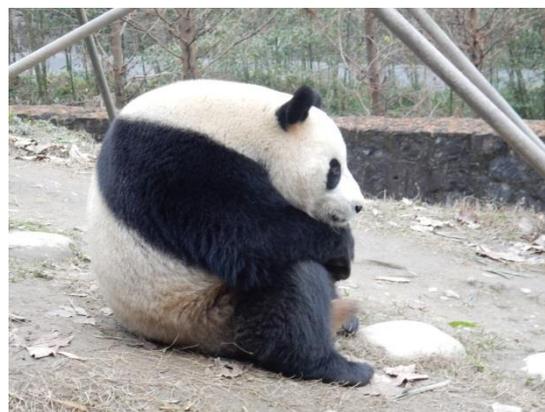
三つ目は、高校の敷地内に受験生専用の校舎があることです。これは、受験生のストレスを少なくするためにつくられたそうです。

四つ目は、お風呂にバスタブがないことです。ホテルだけでなく家庭でもシャワーしかなく、また、トイレと同じ部屋にあるので、着替える場所が狭く、最初は少し戸惑いました。

また、中国で今後、取り組むべき問題として、交通整備があまりされてないことがあると思いました。信号機が少なく、車通りの多い通りでも、歩行者が平気で横切っていました。車優先社会のようで、歩行者にとっては危険な状態でした。クラクションを鳴らす車が非常に多いことにも驚きました。

このように、実際に中国に行ってみないとわからない点を、自らの体験によって多く知ることができ、視野を広げるのにとっても良い機会となりました。私は中国を訪問する前は、中国の人々は日本を嫌っていて、私たちを歓迎してくれるのかと不安に思っていました。実際は快く受け入れてくださいました。中国の人々の暖かさに触れて、私の中での中国への印象は大きく変わりました。

いつか、中国語を話せるようになって再度中国へ訪問し、その文化や歴史を詳しく学びたいです。



『四川をアジワウ』 ウィンターキャンプ報告書

広島県立五日市高等学校 1年 柴村 航生

私が実際に中国を訪れて感じたことは、今までマスメディアの情報だけで、その国すべてを理解したつもりになっていたことです。

第一に、私たちが宿泊したホテルでは、日本のニュース番組を視聴することができたため、そのニュースを見ていたところ、中国のとある省で『中国政府がクリスマスのイベントを弾圧する』というニュースが報道されていました。しかし、私たちの滞在していた四川省では、誰もがクリスマスのイベントを楽しんでいて、ニュースで報道されていた弾圧の兆しを少しも感じることはありませんでした。

第二に、中国の大気汚染問題についてです。中国に行く前にニュースで中国の大気汚染を報道するニュースも実際に見ましたし、家族や友達から、「中国は大気汚染がひどいから注意しろよ」と散々言われました。しかし、実際に行ってみると今まで思っていたほど、大気は悪くありませんでした。

その一方で、噂通りだったところもありました。それは、日本に比べると交通マナーを含む交通事情があまり良くないことです。例えば、歩道をバイクがたくさん走っていたり、歩行者信号があまり整備されていない場所もたくさんあったりしました。また、ガイドの人から「絶対に水道水を飲んではいけない」とも言われました。

次は、私が実際に中国を訪れて印象的だったことについて説明します。まずは、川劇（せんげき）についてです。川劇とは、私たちが滞在した四川省の伝統芸能です。その川劇で特に印象に残ったのが、変面です。変面とはその名の通り、顔やその周りにつけた面を、瞬間的に見事に変えてみせる演技です。特に、最後の演技で、神様のような姿をした人が顔と周りにつけた面を、大きな旗を回すだけで変えてみせる演技には、驚きが隠せませんでした。

さらに、中国では、日本車よりも『ヴェンツ』や『ヴォルクスワーゲン』といったヨーロッパの車が多かったです。さらに、スマートフォンも『アイフォン』より『アンドロイド』を使っている人が多かったです。

最後に、この6日間の滞在を通して、マスメディアの報道内容は、あくまでも一部の地域で起きた出来事なのかもしれないと実感しました。また、現地の人とコミュニケーションを図る中で、自分の英語力が十分でないことを痛感する場面が多かったので、次回海外に行くときは、今回よりも英語力を高めて臨みたいです。

最後になりましたが、このプログラムを企画してくださった広島県の職員の皆様、広島から引率してくださった大田様、四川省の職員の皆様、そして優しく接してくださった四川省の方々には心よりお礼申し上げます。



四川省で成長

武田高等学校 1年 出口 知秀

私は、今回の「四川国際姉妹都市『四川をアジワウ』ウインターキャンプ」に参加して、今まで抱いていた中国のイメージが大きく覆りました。特に以下の2つのことが印象に残っています。

1つ目は、成都市の復興力です。成都市では10年前に成都大地震がありました。中国のめざましい経済力でそれを感じさせないほどの復興と発展を続けていました。例えば、街のいたるところにあるレンタル自転車サービスや、スマートフォンの電子マネーを利用した会計です。日本でもこの2つは普及しつつありますが、中国ほどではありません。レンタル自転車産業は大都市圏の一部だけにしかなく、電子マネーも一部の大型店舗に限ったものです。一方、中国はレンタル自転車が街のいたるところにあり、市民の交通の足となっています。また、都内の店はもちろん道端にある屋台もスマートフォンの電子マネーでの会計制度を取り入れています。私は日本が先進国だと思っていたので日本の方がそのような設備や技術が進んでいるかと思っていました。しかし、実際自分の目で見てみると、中国の方が近未来的で改革が進んでいるように感じました。



2つ目は、中国の歴史的な建造物です。その中でも都江堰水利施設の見学やパンダ保護研究センターの2つが心に残りました。水利施設は、河川の氾濫を防ぐために、川の流れを調節するために川を2本に割いたり、土砂の堆積を考慮して川底に丸太で印をつけたりしていました。その技術は、私が通っている学園のルーツでもある武田信玄の信玄岡堤でも参考になっていることから、昔も今も日本は中国の良い影響を受けていることがわかりました。また、パンダ基地ではパンダの餌やりのシーンや寝ているところなど普段見られないものを見ることができました。あの上野動物園の香香の叔母にあたるパンダがいたり、もうすぐ中国に香香が帰ることなど知ることができ、そのような点でも日本と中国のつながりを深く感じさせられました。

今回のプログラムで、私は中国を身近に感じる事ができました。今回のプログラム参加をきっかけに、海外への興味が高まったので、これからは日本だけでなく海外にも目を向けていきたいです。まずは四川で感じたことを学校の友達で伝えていくことで、少しでもこういった事業に興味を持ち、参加する人を増やして今までの生活では味わえない価値観を見出して欲しいです。

四川国際姉妹都市「四川をアジワウ」ウィンターキャンプで学んだこと

武田高等学校 1年 白木 聖羅

私はこのプログラムに参加して多くのことを学ぶことができ、とても貴重な経験になりました。私にとって絶対に忘れられない思い出にもなりました。私は初めての海外訪問で最初は不安も少しありましたが、結果的にとても楽しむことができました。違う学校のメンバーや四川省の方々などたくさんの人と交流することができ、私が重視していたコミュニケーションをとることができたのでよかったですと思います。



(景観)

高いビルが多く並んでいて一つ一つの建物が大きい印象が強いです。多くの場所に自転車が置いてあり貸し出しできるようにしてありました。商店街のような場所ではたくさんのお店があり、多くの人でにぎわっていました。お店は中国の歴史的な景観が残っているように思いました。



(食事)

中国では真ん中に大きなテーブルがあり、そこに置かれている円卓を回して自分で料理をとるといった食事の仕方が一般的でした。出される料理は香辛料が多く使われており、辛いものが多くありました。特に食べた中でも麻婆豆腐は辛かったけれど美味しかったです。辛いものとは反対に甘い味付けのものも多くありました。



(変面)

中国の伝統芸である変面を鑑賞しました。実際に見るととても迫力があり、圧倒されました。面が変わるスピードの速さに驚き、どのような仕組みなどがあるのか気になりました。身につけている服もとても豪華で変面ショーをより華やかにしていました。



(四川刺繍博物館)

多くの博物館や遺産を見学しました。その中でも印象に残っているのが四川刺繍博物館です。どれも細かい刺繍が施してありました。左の写真にある服の刺繍は特に綺麗に思いとても印象深いです。色鮮やかで近づいて見ればみるほど凄さがわかります。白色の刺繍は光って見えたのでとても綺麗でした。



(ホームステイ)

私のホームステイ先の子は日本のアニメが大好きでそのことについてたくさん話してくれました。「日本のことが好き」と言ってくれた時はとても嬉しかったです。言葉が伝わらなかつたらどうしようという不安もありましたが、伝えようと頑張ることができ、会話を多くすることができました。ホームステイ先の家族の方にもたくさんお世話になって本当に感謝の気持ちでいっぱいです。いい経験にすることができました。多くの人に感謝し、この経験を様々な場所で生かしていきます。

四川国際姉妹都市「四川をアジワウ」ウィンターキャンプに参加して

武田高等学校 1年 下野 紗羽



今回このプログラムに参加できたことは私の人生にとってとても大きな財産になったと思います。初めて中国へ行くということで楽しみではありましたが、もちろんとても緊張していました。今回のプログラムを通して、中国のいい面をたくさん見つけることができました。そしてもっと中国を含め、外国について知りたいと思うようになりました。



中国で一番印象に残っていることはホストファミリーと出会えたことです。私は中国語が少し話せませんが、現地の方の家に泊まって会話をすると不安だらけでした。でもホストファミリーの方々はみんな優しく、すぐに私を受け入れてくれました。朝ごはんにはチベット族の間で食べられるヤクの肉とバターを食べさせてもらいました。これは人生最初で最後の経験だったかもしれません。私がいつも食べている牛とは少し違いましたが、とても美味しかったです。晩ごはんには私が中国で食べたいと思

っていた火鍋のお店に連れて行ってもらいました。少し辛かったけどとても美味しかったです。分からないことがあったらすぐに助けてくれて、本当に感謝しています。絶対にまた四川に行って会いたいです。

中国での食事は全部美味しかったです。四川は辛いものが多いことで有名なので少し心配で、食事が合わなかったときのために日本食を少し持って行っていました。結局食べなくて済みました。日本とは味も使われている食材も違って、初めて食べる味がほとんどでした。でも私にとっては好きな味が多かったです。今回食べたものの中で1番美味しかったのはやはり本場四川の麻婆豆腐でした。他にも日本ではなかなか食べられない羊の肉やアヒルの舌も食べました。ホテルの朝食、晩食のバイキングも置いてあるものが日本とは違い、毎朝楽しかったです。



ホストファミリーや引率の方々だけでなく、一緒に参加した広島県と山梨県の仲間達にも出会えてよかったなと思っています。私が今回のプログラムで学んだことは中国についてだけではないと思います。広島県から参加した仲間達とは広島空港で会ったときから仲良くなって、6日間ずっと一緒に行動していました。広島県からも色々な高校から参加していて、みんな全く違う背景を持っていたので知っていくうちに刺激になりました。

「実際に見たからこそわかること」

武田高等学校 1年 石橋 二昂

私は今回の「四川をアジワウ ウィンターキャンプ」に参加したことで、私自身が持っている固定観念にとらわれず、新しい発見をし、世界に対してより視野を広げることができました。

中国へ行くのは今回が初めてでした。私は、中国に対して良いイメージがあまりなく、とても不安でした。しかし、実際は全く違いました。成都空港に到着した私たちを待っていてくれた引率の方々は、とてもフレンドリーに私たちを迎えてくれました。一瞬にして、私の持っていた負のイメージは無くなり、同時に不安も無くなりました。今回のプログラムでは、四川の様々な博物館を見学し、日本では滅多に見ることのできないパンダを間近で見ることができ、四川の高校生と交流をし、ホームステイもさせてもらいました。



四川では博物館などで度々驚かされましたが、一番驚くことが多かったのが、移動中のバスの窓から見える光景です。日本とは異なる文化であるので、当然日本ではみられない光景があるだろうとは思っていました。しかし、四川の道路には、想像していなかったものがありました。自転車です。しかも、数え切れないほど沢山の自転車が、道の脇に置いてあるのです。詳しく聞いてみると、1時間一元(17円)ほどで誰でも使

うことができる自転車でした。近年、排気ガスによる大気汚染が世界的に問題となっていますが、この様なユニークな対策を目の当たりにして中国の大気汚染問題に対しての積極的な姿勢が見えました。また、交通ルールも日本とは大きく違いました。写真のように、ほとんどの人がバイクに乗る際、ヘルメットを被っていません。日本よりも、規制が緩いように感じました。

何よりも強く印象に残ったのは、今回私が一番楽しみにしていた、現地の人との交流です。まずは、現地の高校生と交流をしました。同い年ということもあって、すぐに意気投合し、あっという間に仲良くなることができました。

ホームステイは各家庭に一人で、その日は私1人で行動しなければなりませんでしたが、とても緊張していましたが、ホストファミリーは私を家族の様に迎え入れてくださり、家の玄関では、日本語で「ようこそ」と歓迎してくれました。たった一日というとても短い時間でしたが、中国の普段の生活を知ることができ、ホストを務めてくれた生徒とは親友になりました。

この時の私にはすでに、中国へ行く前のようなマイナスなイメージがほとんど無くなっていました。四川では驚くことばかりでした。日本ではあまり馴染みの無い「キャッシュレス」ですが、四川では小さな市場や、自動販売機でもほとんどがキャッシュレスで、現金で払おうとすると断られることもありました。日本の政策は世



界的に見ても進んでいると思っていましたが、そうではなかったです。日本に居ると、世界の情報はメディアからの情報でしか分かりませんが、実際に行くことで想像以上に分かること、驚くこと、はたまた期待を良くも悪くも裏切られることなど、実際に体験しないと感ずることのできないものがありました。

中国に行く前の私は、日本の中だけの情報で中国のイメージを作り上げ、良い国では無いと勝手に思っていました。このプログラムを終えた時は、もう一度行きたいと思うほどにイメージが大きく変化していました。今回勇気を出して応募し、参加させていただいたこのプログラムで得た経験は、私にとって宝物となりました。

このプログラムに参加した人は、中国にとっても良いイメージを持つことができたと思います。私たちの勇気で、国同士のイメージが変化し、それによって少しでも世界が変わると思いました。この経験を活かし、今後もこのようなプログラムに積極的に参加していきたいと思ひます。私たちを支えてくださった沢山の方々のお陰で、とても良い経験になりました。本当にありがとうございました。

ホストファミリーとの思い出

広島県立熊野高等学校 2年 渡部 未悠

私にとって、今回の「四川をアジワウ」ウィンターキャンプで一番の思い出はホストファミリーと過ごした時間です。海外へ行くのは初めてで、しかも熊野高校からの参加者は私ひとりということで、広島を出発するときは落ち着きませんでした。しかし、そのような懸念もホストファミリーと会ってすぐに消えました。

私が彼女と出会ったのは都江堰中学校でした。私は英語も中国語も全く出来ないのですが彼女と仲良くなれるのかとても不安でしたが、彼女が積極的に話しかけてくれたりしてくれたので、私も知っている単語やジェスチャーで会話することができました。その日の夜は彼女とその友達、そして同じ訪問団の子達と火鍋を食べたり、お昼に訪ねた都江堰水利施設周辺に行きました。彼女の友達もすごく話しかけてくれてとてもフレンドリーでした。火鍋は辛い物だけしかないと思っていたのでトマトスープやキノコスープがあること、ジュースが温かいことに私は驚きました。ご飯は辛い物や甘い物のメニューが極端で食文化の違いを感じました。

水利施設に行く道はお昼と夜では印象が全く違いました。お昼は昔ながらの風景、夜は現代のイルミネーションの風景とその差に驚きました。次の日には雑貨屋などをご飯を食べたメンバーで周りまわりました。広島と同じ気温だったのをよく覚えています。一緒に買い物をしたりご飯を食べたりして少しは仲良くなれたかなと思いました。

買ってもらったパンダの指輪、タピオカジュース、伝統的な衣装・食べ物にふれる。今となってはとても大切な思い出です。別れる時に私が泣いていたら心配してくれたり、たくさん話したり、プレゼントをくれたりたくさん貰ってばかりでした。今度は私が彼女たち、そして中国にお返しができるくらいなと思っています。謝謝。



ウィンターキャンプ レポート

盈進高等学校 1年 馬屋原 瑠美

私は、この派遣を通して、四川のあらゆる文化を肌で感じる事ができ、四川が大好きになった。現地を訪れ、まず、高層ビル群に目を見張った。そして、街並みに圧倒された。実際、町と人は活気に満ちて、さらに発展するだろうと容易に想像できた。

四川は三国志の舞台で、川劇の変面や、書道や錦など、多彩な文化が色濃く残る場所だ。その中でも私が印象に残っているのは、川劇の変面だ。私は、初めてそれを見たが、一つ一つのパフォーマンスに細かい工夫が凝らされ、舞台袖では劇中の擬音や挿入歌を生演奏しており、とても面白く、自分も劇の中に入り込んだような気分になった。

ホームステイもさせてもらった。私のパートナーは、日本のアニメやキャラクターが大好きな同級生の女の子。彼女は、私に日本についてたくさん質問してくれた。私は、こんなに日本に興味を持ってくれている人がいることがとても嬉しかった。実は彼女の家族と合流する時、私はとても緊張していた。なぜなら、私の脳裏に、旧日本軍の中国侵略の歴史がよぎったからだ。お父さん世代なら、このような歴史的背景から、日本人をあまり快く受け入れてくれないのではないかという不安があり、私は勝手に彼らに対してバリアをつくっていた。しかし、彼女やその両親は、私をあたたかく迎え入れ、中国のことをたくさん教えてくれた。その日の夕食は、彼らといっしょに鉄鍋だった。それは日本にはない味の出汁で、具材は牛肉や豚肉から、アヒルの舌のような驚きの具材まであった。肉まんや麻婆豆腐、中華そばもとても美味しかった。

食後、世界遺産の都江堰を訪れた。私は、前日昼間にそこを訪れていたが、夜の都江堰は、川や建物がライトアップされ、昼間とはまた別の美しさを持っていた。私は、そのあまりの優雅さにしばらく見惚れた。帰り道、他のホームステイ家族のお母さんが私に「一休さん」のテーマ曲を歌ってくれた。日本文化が、異国で年代問わずこんなに愛されていることに、嬉しくなり、日本人として誇らしかった。私たちが、お返しに童謡「チューリップ」を歌うと、彼女は手を叩き、喜んでくれた。

とうとう、別れの時。私は、この滞在を通して、パートナーの子と姉妹のように仲良くなった。だから、別れがとても寂しくて、自然と涙がこぼれた。そんな私を見て、彼女のお母さんが「You are my daughter. (あなたは私の娘だよ)」と言ってくれた。その瞬間、さらに寂しさと嬉しさがこみ上げ、再び涙が頬を濡らした。ホームステイ中、うまく意思疎通ができず、彼女のお母さんにもたくさん迷惑をかけた。しかし、最後にこんな言葉をかけてくれて、私はとても嬉しく、必ずまた会いに行くと心に決めた。

私はこの滞在を通して、それぞれの文化に触れ、対話を重んじ、お互いに理解し合うことの重要性を再認識した。それこそが国籍や考えの違いを超えた市民の「連帯」を生む。私たちはそれを基に、“加害”と“被害”を超え、ともに平和を構築しなければならない。

この派遣で、今まで中国に対して偏見を持ち、勝手に物事を判断していた自分を情けなく思い、悔やんだ。同時に、互いの文化に触れ、国境を越え、ホストファミリーと本当の家族のような素敵な関係が築けたことは私の宝物だ。私はこの経験を忘れず、中国についてもっと勉強したい。将来国際社会で活躍するために、この派遣で学んだ「互いの文化を尊重し、相互理解を深める」ことを大切に、これからも地道に謙虚に活動していく。

この貴重な学びの場を与えてくださった、広島県、山梨県、四川省の職員の方々、一緒に派遣された高校生、仲間、先生方や学園、家族、全ての皆様に心から感謝申し上げます。

中国の優しさ

広島県立広島国泰寺高等学校 1年 陶山 加奈



今回、四川省に研修に行つて気付いたことがたくさんありました。私のこれまでの中国のイメージは、人や車が多くて、街もあまり整備されてなくて水があまりきれいではない。そんなイメージでした。

でも、実際に行つてみて、中国を見る目は180度変わりました。まず、街の外観について。たしかに人は多く、車はたくさんありましたが、街中はとってもきれいでした。あらゆるところにゴミ箱があつて、道路もきれいで、日本にある中華街とそっくりでした。

そして、衛生面の事に関して。トイレは、日本と大きく違いました。トイレトーパーを流さないのは、驚きました。でもトイレは全体的にきれいでした。水も水道水は飲まないほうが良いと言われましたが、ホテルには、飲料用の水道もあつて安心しました。また、今回の研修で事故や犯罪は一度も見えていないし、とても治安のよいところだと思つていました。



次に中国の人達について。本当に私の見る目が大きく変わりました。特にホームステイでは、中国の人達のあたたかさに触れることができました。ホームステイ先の家族は、本当に優しくつたです。私は、中国語をまったく話すことができませんでした。でも、ホストファミリーは、私に一生懸命わかりやすい英語で話しかけてくれました。ごはんもとてもおいしかったし中国の伝統的な服も着せてくれました。「あなたに似合うわ。プレゼントよ」と言ってくれ私のために用意してくれたと思うとうれしかったです。おみやげを買うときに、私がお金を払おうとしたら、「あなたは、私の娘だから、私が払うのよ」とホストマザーに言われた時はとてもうれしかったです。1日も満たない時間を過ごただけで、娘と思ってくれたことも、中国と日本の中で、こんなにも温かい気持ちが生まれることも、ホストファミリーのみんなが、私のことを受け入れてくれたことも、本当にうれしくて感動しました。言われたときは涙が出そうでしたが、泣くのもおかしいなと思つて、必死にこらえました。

他にも、私たちが中学校を訪問したときには、手厚く歓迎してくれて、おもてなしの心がすごいなと思つていました。私が商店街で買い物をしているときにも、店員さんは、私のカタコトの中国語を一生懸命聞き取ろうとしてくれました。

中国の方々に対して、きついかうるさいとかそんなイメージを持っている人もいます。でもまったくそんなことはなかつたです。本当に中国の人達は優しいと感じました。

今回の研修を通して、一番良かったのは、中国の人々の心の優しさに触れることができたことです。私の一番の目的であった「日本から見る中国と、本物の中国の違いを見つけること」に関して、書ききれないくらいたくさんありますが、わたしが一番感じたのは、中国の人達は、本当に「親切」で、「心が温かい」ということです。

最後に今回の研修に携わったすべての方々へ、このような貴重な体験をさせてくださって、本当にありがとうございました。

四川省に行った感想

広島県立広島国泰寺高等学校 1年 田 遥嘉

初めて四川省に行き、一番心に残った事はホームステイ先の家族と一緒に会話したことです。

ホームステイでは、たくさんの事を学びました。特に驚いたことは私より一つ年下のホームステイ先の女の子が英語でたくさん話しかけてくれたことです。そして、私よりも、語彙力や知識量があり、人前で堂々と話すことができる姿にとっても感銘を受けました。まだまだ、私の英語力は世界で通用しないという事を実感しました。また、今回の大きな目標である中国語でホームステイ先の家族と話すことは私的に達成できたと思いました。例えば、大型ショッピングセンターに行きたいと声をかけたり、店員さんにこれはどこにありますかとか、食事の時に店員さんと一緒に話すことができたことなど、積極的に声をかけることができたと思いました。特に嬉しかったことは、自由行動の時に現地の方から話しかけられて「あなた、中国語上手だね。」といわれた事です。私の中国語が通じたと感じた場面でした。これからの社会は三か国語以上話せることが必要になってきています。そのために、私は中国語や英語をこれからも学び続けていきたいと思いました。今回の「四川をアジワウ」ウインターキャンプは私に大きな刺激を与えてくれたと思います。国境を超えるだけで、文化や言語などが異なり、多くのことを学ぶことができました。また、広島県内から集まった他校の生徒にもたくさんの事を教えてもらい、私にはない新しい視点で物事を見ることができたと思います。こんなに凄い人達と出会えて、あらためて世界は大きいのだなと感じました。そして、私はこのプログラムを通して世界で通用する人材になりたいとあらためて感じました。今私に必要な事をしっかりやっていきたいと思います。



左の写真は、四川省でとったパンダです。日本よりパンダの数が多く、迫力がありました！また、パンダを生で見たことがなかったので、テレビで見るよりも可愛かったです。その他にも、パンダ以外に熊やレッサーパンダなどたくさんの種類の動物がいてとても心が癒されました。また、パンダが笹の葉を食べている姿も見ることができ、とても楽しく感じました。

右の写真は、四川省成都の上から見た模型図です。内陸部にある成都ですが、あらゆる所にマンションや大型ショッピングモールがあり、とても発展している所だと思いました。また、日本には少ない地下鉄や交通機関がとても多いと思いました。そして、成都ならではの四川料理もあり、辛かったですがとてもおいしかったです。もう一度訪れたいと思いました。



ウインターキャンプ報告書

広島県立広島国泰寺高等学校 2年 山本 優輝

このプログラムに参加することが決定してから、中国と日本の文化の違いや四川料理にわくわくしていたのと同時に不安もありました。たとえば、慣れない香辛料、言語のこと、また、広島の他校の高校生や山梨の高校生と友達になれるかどうかです。しかし空港で会った時から、楽しく話をすることができ、仲良くなれて不安は少しずつ減っていきました。

四川に到着した日の夕食で山椒が思ったよりも独特な味であったことに驚きましたが、様々な観光地で、歴史や自然について大いに学ぶことができ、四川がとても好きになりました。それでもやはり、ホームステイに対しては不安が残っていました。しかし、ホストファミリーの方はとても親切で、言葉が通じないときは、翻訳アプリを使ってくれました。私は、知っている中国語の単語やジェスチャーを使いました。中国語も話せるようになりたいと思いました。夕御飯は火鍋でした。とても辛かったので、私はずっと「ラー」と言っていました。次の日の朝は民族衣装を着て観光をさせていただきました。とても楽しかったです。

中国の文化は思ったよりも異なっていましたし、苦手な料理もありました。しかしそれよりも素敵な友達に出会えたこと、様々なことに挑戦できたこと、四川は素晴らしいところだと知ることが出来たことが私にとってかけがえのない宝物になりました。



四川省訪問報告書

広陵高等学校 2年 角田 和哉

私がこの事業に参加する前、父や母は少し心配だと言っていました。また日本が戦争していた頃を知る祖母には今回の事業のこと話しませんでした。私自身、中国に対してよくない印象を抱いていました。私がこの事業に参加した理由は、中国の人の考え方や価値観や都市の発展が知りたかったからです。私が感じた中国は主に二つあります。

一つ目は、日本との違いです。バスで移動している際、視界に入るのは高層マンションばかりで、至る所でマンションの建築が進んでいました。道路が広くとても驚きましたが、それでも町の中心部に行くと渋滞がありました。日本と違うと感じたことは、自転車、警察、車のクラクション、輸入車、セキュリティチェック、そして歴史的な遺産の多さです。街では多くの有名な外国自動車メーカーの車が走っており、現在の成都の豊かさをうかがい知ることができました。博物館を訪れた際に成都市の都市開発計画を見ましたが、その開発の勢いは物凄かったです。そのため町では地下鉄などのインフラ工事、空港では拡張工事を行っていました。人口が増加することを考え、道路、空港の拡張や居住マンションを優先的に建設しているところは感心しました。文化面などまだまだ違いがありますが都市開発が一番印象に残っています。

二つ目は、中国人の温かさです。空港では素っ気ない対応でしたが現地の学校を訪問した際は、多くの生徒が出迎えてくれ、積極的に話しかけてくれました。歓迎セレモニーは盛大で現代風なダンスや伝統的な踊りを鑑賞することができました。その後のホームステイはこの事業一番の思い出となりました。終始ホストのお父さんとお母さんとの会話には一苦労したものの、街を歩きながら楽しく会話したことはかけがえのない思い出です。ホストファミリーと一日が過ぎ、ちょうど仲良くなった頃にお別れしなければならずとても辛かったです。

この事業を通し、中国の人の温かさに触れキャッシュレスした社会を見られたことは大きな経験となりました。今後は、この事業に参加したことを心にとめ、中国と交流を深めていきたいです。



「四川をアジワエタ」最高の6日間

広島県立尾道北高等学校 1年 吉本 翔陽

私は出国直前の新聞で、「2019年～2021年、国連分担金 中国が2位、日本は3位に後退」という記事を見ました。国連分担金は、各国の経済指標に基づいて決められるのですが、この記事を読んで私は、日本は中国に追い抜かれてしまったのか？と衝撃を受けました。



実際に中国に滞在してみると、「経済大国」としての中国を至る所で感じました。テレビのニュースでは、画面が何分割にもされ、1日の金融に関わる情報が絶え間なく流れていました。高速道路はとても広く、走る車も電動車が多かったです。私が訪れた成都という都市では、地下鉄や、新たな国際空港、中国最高層ビルが建設中でした。これらのことから、中国国民の経済に対する意識の高さを感じました。その一方で、四川省にはパンダの保護施設や世界最大の公園があると聞き、環境に対する意識の高さも感じました。また、ホームステイでは、移動の

際に荷物を持ってくれたりお土産を渡してくれたりと、中国国民の優しさを感じました。

今回の滞在を通して、経済成長を続ける中国、環境を守る中国、やさしい人柄の中国、長い歴史を持つ中国、食文化が豊かな中国、など様々な中国をアジワウことができました。

今回が私にとって初めて訪れた海外だったのですが、もっと世界を見たい！と思うきっかけにもなりました。今後中国を含め、世界各地を訪れ、色々なことをアジワイたいです。

今回経験できたことに感謝し、日本と中国の相互の発展・成長に貢献したいです。そのために、何事にもチャレンジしていきたいと思います。自分を成長させるきっかけを作ってください、本当にありがとうございました。

～谢谢 for everything!～



自分の目で見てわかったこと

広島県立尾道北高等学校 2年 岡 歩美

私は、今回のウィンターキャンプを通して中国に対するイメージが180度変わりました。正直、出発する前は、「治安が悪そう」「騙されそう」というイメージが強かったですが、実際に現地の方々とコミュニケーションをとると、この私の考えはただの偏見だったということが分かりました。

そう感じた一番のきっかけはホームステイです。ホストファミリーは十分すぎるほどおもてなしをしてくれ、言葉が通じなくても翻訳機を使って伝えようとしてくれました。ホストファミリーと中国の街を散策して分かったことですが、中国の人にとっては、冬に素足を出す制服はとても珍しいようで、「寒くないか」「履くものを買ってあげる」ととても心配してくれました。街の人にも凝視されたので、よほど珍しいのだろうと感じました。

また、中国滞在がちょうどクリスマス・イブにかかっていたので経験出来たのですが、ホテルからクリスマスプレゼントを頂きました。中国の一部の地域では、クリスマスにりんごを送る風習があるようで、日本の文化との違いに驚きました。

中国の街を実際に眺めてみると、私が予想していたよりもかなり発展していました。中国の英語教育は日本よりも進んでいて、学生は英語がとても堪能でした。しかし、一部の地域では、街の道路には穴が開いていたりして、都市部との格差が感じられる部分もありました。現在、成都では新しい都市を開発する大きな都市計画が進んでいて、これが実現することで少しでも格差がなくなるのではないかと思います。また都市部でも、トイレにトイレットペーパーが流せないという下水道の問題や、交通整備の問題など、様々な課題があることが分かりました。経済成長を遂げている地域だけでなく、開発が遅れている地域もあることが自分の目で見て分かり、単純な一つの視点だけで国を捉えることの危うさを感じました。

都江堰では水利施設を見学しました。一番の古い水利施設を現在も使っているようで、日本の水利工事の際にも参考にされたそうです。ここでも、日本と中国の古くからの繋が

りを感じました。水量が多く、土砂が流されてしまうので、年に一回、春に水をせき止めて人の手によって土砂を取り除くと聞き、壮大なスケールに感動しました。

今回のウィンターキャンプは、様々な博物館に訪問したり現地の人と交流したりして、今まで知らなかった中国の歴史や文化を知る機会になりました。この中国の魅力を学校内外のたくさんの人に拡散して、日中の友好関係をより良くできるよう努めていきます。



挑戦心

広島県立尾道北高等学校 西門 遼奈

「中国って空気があまりきれいじゃないんだろうなあ、食べ物は安全なのかな、中国人って厳しそうだな。」今回の四川省訪問で、私が今まで持っていた中国への偏見は尽く覆っていった。

まずは食事。一日目の夕食はバイキングだった。何気なくお皿に盛り付けをしていると、私はある札の立った料理を見つけた。そこにはこう書いてあった。「Rabbit Head」ウサギの頭…？よく見るとそれは確かにウサギの頭のような形をしていた。動揺した私はそのままそこを通り過ぎて席についた。食事が始まり、他校の生徒とも明るく会話を楽しめるようになっていった。一方、先ほどの料理が気になってならなかった私はそのことを同じテーブルの仲間に伝えてみた。すると、その中の一人がこう言った。「ウサギの頭なんてここでしか食べられないかもよ。」確かにそうだ。そして、私達は勇気を出してそれを食べてみることにした。激しい抵抗心はあったものの意を決して口の中に入れてみた。あれ？美味しい！それが率直な感想だった。私達日本人は、ウサギを食べるという習慣がない。だから、私の中にも強い抵抗心が芽生えたのだろう。しかし、現地の人々にとってはそれが日常で、私達が鶏肉や牛肉を食べると何ら変わりはなく、それに対して否定的な感情を抱くのはおかしいことだと気づいた。それから六日間、私は様々な四川料理に触れ合った。一日目に感じた思いを胸

に私は初めて出会う料理と果敢に向き合い、肌で異文化を感じた。その魅力も十分理解し、帰国後は四川料理のような辛く少し刺激のある食べ物を体が求めている。この時私は心身を通じて真の異文化理解を追求できたように感じた。

次に印象に残っているのは人との出会いだ。特に、都江堰中学校を訪問した時のことが印象に残っている。私達は到着するや否や大きな歓声に包まれた。四千を超える全校生徒が私達を拍手で迎えてくれた。私は初対面の人を

こんなにも歓迎してくれる彼らの心の温かみを強く噛みしめながら一歩ずつその集団の中へと入っていった。すると、一人の少女が近づいてきて、「私、少し日本語がしゃべれるの。」と言って話しかけてくれた。また、歓迎セレモニーでは日本の曲を歌ってくれたりダンスを踊ってくれたり、たくさんのおもてなしをしてもらった。私は日本の文化を知ろうとし、少しでも私達に歩み寄ろうとしてくれる現地の学生達の姿に感動させられた。ホームステ



イでも「寒くない？」と私の体調を気遣って服を貸してくれたり、私があやとりを一緒にしたいというと紐を探してくれて丁度いい長さの紐がなかったら、靴紐をほどいてまで用意してくれようとする心優しいホストファミリーと出会い、よりいっそう中国人の優しさを感じ、心が熱くなった。お別れの際には温かい言葉や日本語で書かれた手紙をもらい、とても嬉しかった。ホストファミリーとは今でも連絡を取り合い、友好関係を続けている。

今回、非日常的な体験をたくさんし、多くの人と出会ったことで、私は先入観だけで偏見を持つことは間違っていて、実際に足を運べば、そこには現地の人々の本当の暮らしや生活習慣があり、それを知ることによって真の異文化理解はできるのだと感じ、そのためには新しいことにチャレンジする挑戦心がとても大切だということに気が付いた。

四川省を訪問して

広島県立尾道北高等学校 2年 菊田 琴美

私が今回この研修に参加したいと考えたのは、実際の中国の人々の生活を体験し、本当の中国の姿を自分の目で確かめたいと思ったからです。また、日本との文化や価値観の違いも知りたいと思い参加しました。

私はこの研修を通して、中国でしか味わえない多くのことを経験することができました。そして、中国の印象も大きく変わりました。

1番印象に残っているのはホームステイです。ホストファミリーは今まで私が暮らしてきた環境とは全く違う生活をしていて、驚くことも多かったです。決して日本では経験できない貴重な体験となりました。一泊の短い時間でしたが、お互いの学校生活や住んでいる地域についてたくさん話をしました。また、日本のアニメや作家が好きだという話も聞き、日本に興味をもってくれていることをうれしく思いました。ホストファミリーの方々はとても優しく、3年後日本に行ったときにはあなたの住んでいる町を案内してほしいと言ってくださり、会えることを待ち遠しく思っています。

私はホームステイの中で自分の言いたいことがなかなか相手に伝わらないもどかしさを度々経験しました。そして、中国の学生の英語力がとても高いことにも刺激を受けました。まずはもっと英語を勉強して、自分の思いがきちんと伝わるコミュニケーションをとれるようになりたいと強く思いました。

また、中国の文化にもたくさん触れることができました。本場の四川料理は香辛料が効いていて、口に残る辛さでした。この研修ではさまざまな博物館やパンダ基地、都江堰水利施設を訪問したり、変面劇を見学しました。どれも印象深く、中国や四川省について理解が深まるものでした。

私はこの研修で、物事を自分の目で確かめることの大切さを感じました。日本での中国に対する報道やイメージは良いとは言えませんが、実際の中国は良いところがたくさんあります。私自身中国へのイメージは大きく変わり、広い視野を持つことが必要だと実感しました。この経験を自分の将来へ活かしていきたいです。

